



けいせん



2016.12.16

12月13日・14日。幼稚園ではアドベントクランツの4本目のろうそくに火がともり
うれいクリスマスをお祝いしました。"クリスマスってなあに?"と聞かれて"サンタ
さんの日!" "プレゼントをもらう日"と答えていた子どもたちも、今では"クリスマスって
なんでお祝いするの?"とたずねられると"イエスキリストのお誕生日だから!"とこたえています。
そう、本当のクリスマスは、私たちのためにイエスキリストがもうまれにたまたま、世の中に
きてくださった、それを感謝してお祝いする日。これまでクリスマスというと「もらう」「して
もらう」と受け身だった子どもたちも「する」「できる」と自分にできることはなんだろうと
考えながらお祝いしてきました。クリスマスの喜びを伝えるために劇ごっこをしよう。お父さん
お母さんにプレゼントをつくろう。困っている人のために私たちにできることを(お祈り、
献金...等)をしよう。与えられる喜びだけでなく与える喜びも知ることができたの
ではいでしょうか。

ももぐみ(年長)のクリスマス。残念ながら1人の男の子がお休みでした。
Aくんがいつかには気づいて子が、"あれ? Aくんは?"と言いました。"Aくんね、
今日お休みの子"と担任の先生が伝えて時々の"えっ!"という声。その表情は
見えませんでした。声からさみしさや悲しさだけでなく、(やさしさのうらみ)気もちも
感じられました。とても印象的でした。一糸巻に聖劇(降誕劇)をしたかった
のに... そんな思いが伝わってきました。

今年のクリスマスは、そんな子どもたちの姿から、牧師先生のメッセージから、
「共にいる(being with)こと」の大切さと、「あなただけ(being for)すること」の
大切さが心に響いてきました。子どもたちはAくんのことを思いながら心を込めて
演じていたことでしょう。それまで一生懸命練習してリハーサルできずにはなかった
してくれたAくんも、ももぐみのクリスマスのことを思いながらお家で練習していたこと
でしょう。その場にはいなくても「共にいる」と思える聖劇でした。また、ドキ
している子、うれいの子、不安な子... どんなわたくしでも、そのありのままの
存在が「共にいる」ことがおぼろしいので、それぞれの表現で劇ごっこに
取りくむ子どもたちが伝えてくれたひと時でした。他のクラスでもお休みの子、
来ることができなかった保護者の方もいらっしゃいました。そのお一人おひとりも
大切な存在。クリスマスの喜びが届きますように...と願っています。

どうぞご家族でうれいあなただけのクリスマス・新年をお祝いください。

